

R6 自己評価と施設自己評価

問1 子どもが主体的に関わる環境を用意しているか？

- ・子どもがやってみたいと思えるような資格教材や仕掛けを用意するようにしている
- ・自信を持って「はい」ではないですが、努力はしています。子どもの姿やその先を考えて臨機応変に環境を変えたり、人的環境としても配慮したりしている。
- ・物を選べるようにした・好きな遊びを選べるようにした・室内はコーナーで分けている（自由に衣装、楽器、が使えるようにしてある）
- ・常に子どもがどんなことを楽しんでいるか、どうしたら今楽しんでいる遊びが盛り上がるか考えながら環境を作るようにしている。
- ・子ども達の姿から参考にして用意したり、できるようになってほしいなと思う姿に対して手作り玩具や環境を作ったりしている。柵の位置、目線に入るように置いておく。
- ・今、子ども達が何に興味を持っているのかを把握してブロック、ままごと、人形遊び等のコーナーを設け一緒に楽しみながら関わっている。

問2 子どもがわからない事を尋ねる事が出来るなど安心して話せる雰囲気を作っていますか？

- ・子どもが話し掛けてきたら耳を傾けるようにしている。時にすぐ話を聞いてあげられないこともあるが、落ち着いたら話を聞くようにしている
- ・その子の感じ方でも違うかなとも思うので、微妙ですが、子ども達に寄り添っているつもりです。
- ・安心して過ごしていけるようにこども達が先生やってーと甘える時はすぐにやってあげて思いを受け止めるようにした。言葉が出ない子も指差しや身振り手振りで表現する事を言葉にして答えていくようにした。
- ・わからない事を怒らないようにしている
- ・説明を丁寧に行っている
- ・ひととおり話し終えた後「わからない事があったり先生に聞いてね」等聞きやすい雰囲気を作るようにしていた。聞いてきた子に対しても「ちゃんと聞いて偉かったね」と声を掛けるようにしていた。
- ・いつも笑顔でいる事を心がけていた
- ・目を見て笑顔で聞くようにしているつもりだが関われる時間が少ないので、少し緊張する存在なのかと思う事がある。もっと子供と触れ合う時間を作って行けると良いのだが課題です。
- ・話すとき、目線が合うようにしゃがんだり、困ってそうだったら自分から声を掛けたりを心がけている。
- ・普段の何気ない会話を心がけ、こども達の声に耳を傾け一緒になって喜んだり楽しんだり、笑ったり共感している。困っている姿があれば優しく声をかけ、その子の思いを聞いている。
- ・話をするときには子どもの目線に合わせ、様子を見て自分から話せない子には少しずつ質問しながら話せるようにしている。
- ・安心して話せるように信頼関係を築いたり、まずは子どもの声に耳を傾けるように心がけてきた。

問3 保育の中で子どもの発達や理解力、生活経験に合わせた援助（環境・言葉・対応力）をしていますか？

- ・疑問に思ったことなどに対して答えを教えるのではなく、自分で考えられるようにしている。
- ・時々間違えたかも、と思う事もありますが、その子その子に合わせて安心して成果を出せるように関わっているつもりです。
- ・イラストを用意して促したり、出来ない子も何度も挑戦できる機会を作った。
- ・声掛けは様子に応じて継続して行っており、成長できたことについては十分褒めるようにしている。
- ・保育で子どもへの対応をするとき、発達に合わせて自分で出来る事はやってみたくるように言葉を掛けたり、まだ少し難しいところは一緒に行ったりしながら一人一人のはったつ、理解に合わせて関わっている。
- ・子どもによってできる事が変わってくるので、発達段階によって援助の仕方を変えるようにしている。
- ・その子のできる事を行うようにしている。
- ・苦手な事も一緒にやってみようと声掛けを行うようにしている。
- ・ペアの職員とその子の発達等情報交換をしていく中で個々の成長を記録し、その子に合った援助を心がけている。
- ・いろいろな年齢の子と関わる機会が増えたので年齢、それぞれの発達を理解したうえで対応するように心がけている。
- ・理解に合わせて絵表示など自分も出来る事をしたいと思っているが、なかなかできておらず反省である。
- ・その子に合わせて対応するように心がけたが、個々に対応が必要な時に何人かいると手が行き届いていなかったなと終わった後に反省することもあった。

問4 子どもの発達の特性や発達過程を理解し、「発達の連続性」に配慮して保育していますか？

- ・子どもの姿を見ながら次にどう繋げていき、どう成長していくかを考えながら保育をしている。
- ・特性をとらえるのに時間が書かう子もいるけれど、捉えられてからは、その子に合った援助を試行錯誤していくことで、変化や成長が見られるので「発達の連続性」がとても大切だと思います。
- ・適切な援助がわからない時がある。
- ・一人ひとりの発達の段階を保育者同士でもっと共有していきたかった。
- ・3歳の発達過程で大切な遊び（友達との関わり、ごっこ遊び）等、続けてじっくり遊びこめるように保育している。興味関心が増していく時期という事もあるので、その意欲を大切にしながら成長していける遊びを考えるようにしている。
- ・発達過程等を大切にしていたが、それが連続していたのか分からない。
- ・子どもは日々成長しています。昨日できなかったことが今日出来たり、個々の発達に応じて遊びを提供したり生活のいろいろな体験等、保護者と会話したりしてその子の発達に合わせて見通しをもって関わっている。
- ・特性がある子こそ、発達過程が連続性を歓迎し対応するように心がけている。

・発達の連続性まで考えていなかったと思うので、ただ保育をするのではなく常に考えて保育していきたいと思う。

問5 発達上課題のある子に対しても子ども自身の力を十分に認め、適切な援助及び環境構成を行っていますか？

・適切な援助だと思って関わるようにしているが、どうしても注意の声掛けが多くなっていて、果たしてこれが適切なのかと考えるとがある。

・その子に合った環境や援助によって伸びるか伸びないか明確に出てくるので考えて保育しているつもりです。

・遊びはみんなと同じ出なくても良い、製作をしても良いし遊んでも選択できるようにした。

・遊びは無理にみんなと同じでなくても良い、作成しても良いし遊んでも良いなど選択できるように開いた。

・配慮が必要な子の援助が適切な援助かわからない時がある。

・もっと発達に対しての勉強を学んでおくべきだった。一人一人に対しての環境を配慮するべきだった。

・その子の得意な事を伸ばしていけるように関わりながら、その子がどうしたら過ごしやすくなるのかペアの先生と話しながら保護者とも話をしながら援助するようにしている。

・その子のペースに合わせるようにしていた。

・自分の中で適切な援助ができているかで迷う時がある。(特に幼児組に対して)勉強不足などところがある。

・その子の資格に入るように目の前で今やる事を伝え、一語一語丁寧に接する。できた事には大げさに褒めてハグしたりタッチしたりしてできた喜びを一緒になって共感する。本人が今どんな遊びに集中しているのかを普段の行動から探り出し手作り玩具を考えたり用意したりしている。

・その子の姿を認めて、どうしたら生活しやすいか等沢山考えたが、正解は分からず迷う事が多かった。

問6 子どもが触れたりするものや場所など、衛生的な環境を保てるように常に気を付けていますか？

・努力はしている。しかし、どうしても掃除など追いつかない事もあるのが事実。

・出来る限り子どもの目線で見るとすると、汚れているところが目に付いたりするので、いろいろな場所で見ないようにしています。

・玩具を掃除したり消毒したりする

・子どもが入らない場所を決め危険な物はまとめている。

・玩具の消毒など、感染症が広まった時部屋の中の物を消毒するようにすればよかった。

・机の上の整理ができなかった。

・玩具の消毒やロッカーなどの子どもの触れる所を綺麗にするようにしている。

・ゴミが落ちていたり、汚れ、危ないところを見たりしたらすぐに片づけたり直したりするように心がけている。

- ・0歳児で何でも口に入れようとしてしまうので、定期的に消毒庫を活用したり、時間がある時、朝の時間に吹き掃除をしている。玩具の破損がないか確認している。
- ・子どもたちは毎日いろいろなところを触ったり寝転んだりする為毎日使う玩具など消毒したり午睡後、掃除機を掛けたり床を拭き掃除したり心がけているが、時々忘れてしまう事がある。
- ・早番時には丁寧に掃除、消毒をするように心がけるようにしている。
- ・クラスに入った時に気付いたところはそうじしているが、常にではない。
- ・見える場所や毎日使うもの等は意識して行っていたが、足りないところはまだあると思う。

問7 子育てや就労を支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら接していますか？

- ・保護者の気持ちに共感するように意識している。
- ・どもまで答えられているか支えられているかわからないけれど、配慮して声を掛けたり、連絡帳を描くようにしています。
- ・毎日、明るく声掛けしていき、子どもの1日のエピソードを伝えコミュニケーションを取っている
- ・家庭の様子について相談の対応をする
- ・こういわれたらどんな気持ちになるのか考えながら保護者と話すようにしている。
- ・些細な事でも伝えるようにしていた。
- ・表面はそう接しながらも園の都合や子ども目線でとらえてしまう事があり心から思っていない時がある。
- ・決めつけないように、様子を窺ったりまず話を聞き、共感（うなづく、目をしっかり見る、そうなのですね）をするようにしている。
- ・保護者の勤務時間に応じて子どもを長時間お預かりしたり、朝の時間等、保護者の要望を出来るかぎり受け止めながら応じている。
- ・時に一方的な憶測で考えてしまう事がある。十分気持ちに配慮しているとは言えない。

問8 保護者が子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるように心がけていますか？

- ・保護者と会える時はなるべく園の様子を伝えたり、笑顔で忘れないようにして安心できる存在に慣れるようにしている。
- ・保護者の表情の変化や子どもの様子を見逃さないようにし、連絡帳や口頭で話すようにしています。
- ・私だけの力ではないと思うので、すぐに答えられないことは他の園の職員に聞きあいまいな返答をしないように心がけた
- ・会話を通じて先に悩みに気付けるようにしている
- ・普段から子どもの様子をこまめに伝え保護者の方からも話しやすい雰囲気を作るべきだった。

- ・最近の家での様子を聞いてみたり園での様子を伝えたり、保護者と直接会えた時は話を必ずするようにしている。信頼関係を築けるよう心がけているが話の内容に悩んでしまう事もある。
- ・園の様子を伝えながら家庭でのことを聞くように心がけているが、知識不足や不安な部分もあり困った時は他の職員にも聞くようにしている。
- ・話をする機会が少ないので朝の受入れ時の何気ない会話を大切にしようと心がけている。しかし、深く子どものことまで話せないので、保護者にとってはそのような存在になっていないように感じる。
- ・帰りに今日の様子を伝えながら、保護者が悩みを少し出してくれた時に寄り添って聞くようにしている。
- ・連絡ノートを通じて家庭の様子を把握したり登降園時に直接保護者に園の様子を伝えたり今困っていることはあるか、家での様子を窺ったり常に声を掛けるようにしている。
- ・担任の先生が話していると（間に入って）話しても良いのかと遠慮することがあり、自ら話し掛ける事が少ないので、安心して話せる存在にはなっていないと感じる。クラスを持っている時と違って保護者との距離感が難しいと感じる。
- ・心がけてはいるが（保育参加中等）常日頃から関われるわけではないのでもう少し自分なりの関わり方を見つけていきたい。

施設自己評価（R6 年度）

1. 子ども主体の環境づくりに対する姿勢

多くの職員が、子どもの「やってみたい」という気持ちを大切に、興味関心に寄り添った環境設定に努めている様子が見受けられました。

室内のコーナー設定や手作り玩具など、具体的な工夫が多く、子どもに合わせた柔軟な対応がなされています。一方で、「自信はないが努力している」との声もあり、さらなる工夫の共有や実践の振り返りの機会が有効と考えます。

2. 子どもが安心して話せる雰囲気づくり

子どもとの信頼関係を築こうとする姿勢が強く見られました。目線を合わせる・笑顔で接する・共感するなど、基本的で大切な関わりが丁寧に実践されていた。

ただし、「緊張させてしまっているのでは」「関われる時間が少ない」という声もあり、業務配分の見直しや、関わる時間を意識的に確保することが今後の課題。

3. 発達・理解に応じた援助と対応

個別性を意識し、発達段階に応じた言葉かけや環境調整が多く実践されていることは大きな強みです。イラストの活用や挑戦する機会の提供、褒める声かけなど、実践に基づいた工夫が豊かです。

一方で「迷うことがある」「適切か分からない」「勉強不足を感じる」といった内省も多く、専門性の向上に向けた園内研修やチームでの振り返りの強化が課題。

4. 発達の連続性への理解と実践

発達の継続性について「意識している」という記述がある一方、「考えられていなかった」「援助がつながっているか不安」といった自己評価も見られました。

日々の記録やケース会議を通じて、発達の経過を「共有し」話し合っていく。

5. 発達に課題のある子への対応

一人ひとりの子どもの姿に寄り添おうとする思いが多く記されていました。特に「その子の得意を伸ばす」「できた喜びを共感する」など温かい視点が保育を行っている。

ただし、「適切な援助が分からない」「正解が分からず迷う」との声も多く、ケース検討や研修を通じて、職員の不安を減らすしていく。

6. 衛生的な環境の維持

全体として衛生管理への意識は高く、玩具の消毒や掃除、危険物の除去など日々の努力が見られます。一方で「時間が足りず追いつかない」「忘れてしまうことがある」との記載も多く、分担の見直しや簡易的なチェックリストの導入の検討をしていく。

7. 保護者への配慮と対応

保護者の気持ちに配慮しようとする姿勢が根付いており、声掛けやエピソード共有など日常的な取り組みが丁寧です。しかし、「心から寄り添えていない気がする」「一方的な思い込みで判断してしまう」など、職員自身の葛藤や迷いも顕在化していた。

今後は保護者支援に関する研修や事例共有を行うことで、対応力の底上げをしていく。

8. 保護者との信頼関係づくり

「話しかけやすい雰囲気づくり」や「ちょっとした会話を大切にしている」など、信頼関係の構築に向けた工夫が多く見られました。

ただし、パート職員や補助の立場の方を中心に「保護者と距離がある」「関わる機会が少ない」との不安も見受けられます。役割にかかわらず関わりやすい体制づくりや、職員一人ひとりが「信頼される存在」であるための関わり方を園全体で考えていく必要がある。

総合的なまとめ

自己評価全体を通じて、子どもと丁寧に関わろうとする真摯な姿勢と、自身の保育を振り返る内省力の高さが非常に良かった。「できていないこと」を見過ごさず、「どうすればよかったか」を考えている職員が多く、保育の質向上に向けた伸びしろが十分にある。

今後の園としての取り組み

- 「迷い」や「不安」を共有できる風土づくり
 - 自己評価で出た悩みをチームで共有し、アドバイスし合う場を設ける
- 職員同士の連携強化(情報交換・ペア対応)
 - 特性のある子や保護者対応に関する事例共有会の実施
- 園内研修の強化
 - 発達支援、保護者支援、環境構成などテーマ別研修